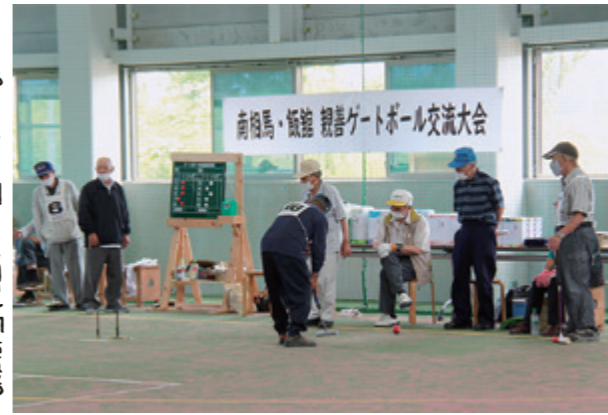


ゲートボールで交流

スポーツ公園の屋内運動施設。4チームの総当たり戦で、チームワークを競いました。



7月13日、『いたてスポーツ公園』で、「南相馬 飯館 親善ゲートボール大会」が2年振りに開催されました。暑さ対策、感染症対策を行いながら、皆さんいきいきとプレーを楽しんでいました。大会を運営した佐藤昇さん(草野)は「大変な状況ではありますが、こうして集まることがうれしいです」と笑顔で話していました。

飯館復興有志の会



作業後は「あびす庵」のうどんを食しながら、飯館地区の復興に向けた熱い話し合いも行いました。

「飯館復興有志の会(荒利喜会長/飯館町)」は、飯館地区の復興を目指す有志の会です。平成30年に結成され、20人の会員が、3年前から桜の植樹や盆踊り大会、さらには飯館復興祭など、地区の事業に取り組んでいます。7月17日には、15人が草刈機を持ち寄り草刈作業を行いました。



思い出の母校、旧飯館中学校の跡地です。荒らさないよう草刈作業を行いました。

念願の方言集が完成しました



「まだまだ人生の通過点。やりたいことがたくさんあるんだ」と村への愛は止まりません。方言集の問い合わせは渡邊さん☎090-7568-7392まで。

7月23日に発行された方言集『福島 飯館の方言「ぼっと…」と「うそんこ」』。著者は、震災後から「かわら版」を書いてきた渡邊富士男さん(飯館町)です。20年以上前から方言をメモに残し続けていたそうで、「たくさんの方がこの本をきっかけに話し、昔を思い出してほしい」と、優しい笑顔で語ってくれました。

はなれていても

齋藤 源吉さん(飯館町) 福島県須賀川市在住



大学まで陸上をやっていた、村役場に勤めてからは、公民館でスポーツサークルの立ち上げや、村民体育大会などに携わりました。

市町村対抗の「ふくしま駅伝」の開催が決まった時は、走れる人に声をかけ、選手はそれぞれ自前のランニングウェアで出場しました。そこからたくさんの方の応援をいただき、ユニフォームをそろえて

いただきました。村の部で優勝した時はうれしかったですね。花火を上げてもらいました。当初、朝の練習はお釜のスイッチを入れてから。そのご飯を食べて子ども達は学校へ行きました。夜は車のヘッドライトを明かりにしての練習です。駅伝をやったみたい子ども達が増えて予選会を行ってほしいです。

私は川俣町の出身で、結婚を機に村に住みました。震災で避難をしている間に、息子夫婦が仕事の都合で須賀川に居を構え、私達も孫の世話をしながら須賀川に落ち着くことになりました。村に戻りたくて、息子達とは随分議論しました。

村の自然には癒やされる。その癒やしを求めて、庭木や盆栽の手入れをしています。趣味をもつて過ごさないと心の居場所がないですね。村の自宅は、維持の難しさから解体しましたが、土地の手入れに行くと改めて、村はいいなあと思います。忘れろと言われても、忘れることはできません。いつも胸の中にあります。



「本当は今すぐにも帰りたいの」と妻の紀志さん。「村はいいなあ」と言った源吉さんの目にはずっと涙が浮かんでいました。

交流センター「ふれ愛館」だより

「いたてオープンガーデンの会」の松原光年会長(小宮)が、自宅の花を使って、毎週、館内のホールに花を生けてくださっています。『今週の花は何か?』と楽しみます。きれいなお花をありがとうございます。



また、館内に七夕飾りをしました。短冊には、「プリキュアになりたい」「警察官になりたい」「みんなが笑顔で健康でいられますように」と子どもから大人までの、たくさんの方の願い事。短冊を書いてくださった皆さま、飾り付けにご協力をいただいた皆さま、ありがとうございます。今後もいろいろなイベントに合わせ館内の装飾をしていきたいと思っております。引き続きよろしくお祈りいたします。



●図書コーナーには新刊が入っています。ぜひご利用ください。